

# 菊 花大会



総合優勝 上田 力 (大菊)



総務大臣賞 花川美津江 (福助)



農林水産大臣賞 田中茂 (盆栽)



財務大臣賞 久門末男 (特作花壇)



厚生労働大臣賞 橋本楷幸 (だるま)

受賞者の皆さん (敬称略)

総合優勝 大会会長羽曳野市長賞 大阪菊花会会長賞	上田 力	大 菊
財 務 大 臣 賞	久門 末男	特作花壇
農 林 水 産 大 臣 賞	田中 茂	盆 栽
外 務 大 臣 賞	平松 義治	大 菊
文 部 科 学 大 臣 賞	芝田 博美	大 菊
厚 生 労 働 大 臣 賞	橋本 楷幸	だるま
総 務 大 臣 賞	花川 美津江	福 助
国 土 交 通 大 臣 賞	宮井 繁一	大 菊
環 境 大 臣 賞	林 保行	特作花壇
民 主 党 代 表 賞	岡本 進	盆 栽
民 主 党 幹 事 長 賞	上田 シゲ子	だるま
大 阪 府 知 事 賞	増田 勝也	福 助
長 尾 敬 国 会 議 員 賞	森満 正廣	特作花壇
長 尾 敬 国 会 議 員 賞	久門 末男	大 菊
長 尾 敬 国 会 議 員 賞	小池 一三	福 助
大 谷 啓 国 会 議 員 賞	石橋 豊	大 菊
谷 川 孝 国 会 議 員 賞	今西 芳彦	大 菊
竹 本 直 一 国 会 議 員 賞	花川 美津江	だるま
谷 川 秀 善 国 会 議 員 賞	植田 勲	大菊4鉢
北 川 イ ッ セ イ 国 会 議 員 賞	古家 和好	福 助
藤 井 寺 市 長 賞	田中 みよ子	盆 栽
松 原 市 長 賞	林 保行	大 菊
大 阪 府 議 会 議 長 賞	橋本 楷幸	大 菊
やまのは創大阪府議会議員賞	松本 正人	大 菊
やまのは創大阪府議会議員賞	新海 まさ子	盆 栽
やまのは創大阪府議会議員賞	上田 力	だるま
やまのは創大阪府議会議員賞	上田 力	福 助
やまのは創大阪府議会議員賞	山本 貞	大 菊

岡田義信大阪府議会議員賞	芝田 福恵	大 菊
岡田義信大阪府議会議員賞	橋本 楷幸	競 技 花
岡田義信大阪府議会議員賞	石橋 千代子	大 菊
鈴木憲大阪府議会議員賞	田伏 三千代	だるま
鈴木憲大阪府議会議員賞	古家 和好	大菊4鉢
鈴木憲大阪府議会議員賞	岡本 進	福 助
岩下学大阪府議会議員賞	宮井 八重子	大 菊
浦野靖人大阪府議会議員賞	小池 一三	大 菊
大阪府教育委員会賞	加川 靖紘	大 菊
羽曳野市議会議長賞	岡本 文子	盆 栽
羽曳野市議会議長賞	小池 一三	だるま
羽曳野市議会議長賞	加川 靖紘	福 助
羽曳野市議会議長賞	田伏 三千代	大 菊
羽曳野市議会議長賞	坂元 清幸	大 菊
羽曳野市教育委員長賞	榎本 良平	大 菊
羽曳野市教育委員長賞	小池 一三	競 技 花
羽曳野市教育委員長賞	平松 義治	だるま
羽曳野市教育長賞	田伏 三千代	福 助
羽曳野市教育長賞	松本 正人	だるま
羽曳野市教育長賞	中村 喜代治	福 助
松原市議会議長賞	芝池 廣和	だるま
松原市教育長賞	平松 悠紀子	だるま
国 華 園 賞	上田 力	大 菊
国 華 園 賞	橋本 楷幸	だるま
国 華 園 賞	花川 美津江	福 助
羽曳野ロータリークラブ会長賞	芝田 博美	だるま
羽曳野ロータリークラブ会長賞	加川 靖紘	だるま
羽曳野ロータリークラブ会長賞	芝田 福恵	だるま
羽曳野ライオンズクラブ会長賞	榎本 良平	だるま
羽曳野ライオンズクラブ会長賞	山本 貞	福 助
羽曳野ライオンズクラブ会長賞	植田 勲	福 助

優	秀	賞	関本 幸男	大菊4鉢
優	秀	賞	石井 利和	大菊4鉢
優	秀	賞	平井 勝馬	だるま
優	秀	賞	林 保行	福 助
優	秀	賞	堀内 義秀	福 助
優	秀	賞	橋本 楷幸	福 助
優	秀	賞	松本 和恵	福 助
優	秀	賞	平井 勝馬	福 助
優	秀	賞	平井 勝馬	大 菊
優	秀	賞	西尾 武	大 菊
優	秀	賞	山本 貞	競 技 花
優	秀	賞	平松 悠紀子	競 技 花
入	選		西内 伸和	大菊4鉢
入	選		関本 幸男	だるま
入	選		西村 幸雄	だるま
入	選		新海 まさ子	だるま
入	選		沢田 恒雄	福 助
入	選		宮井 繁一	福 助
入	選		宮井 八重子	福 助
入	選		坂元 清幸	福 助
入	選		西尾 光子	福 助
入	選		松本 正人	福 助
入	選		芝田 福恵	福 助
入	選		上田 シゲ子	福 助
入	選		榎本 良平	福 助
入	選		西尾 武	だるま
入	選		山本 貞	だるま
入	選		植田 勲	だるま
入	選		植田 勲	競 技 花
入	選		関本 幸男	競 技 花

## 畑田美智子ガラスアート展

～四季折々の景色をガラスに映して～

場所: LIC はびきの カフェ葦屋 店内  
 期間: 1月10日(木)～1月20日(日)  
 開館: 10:30～17:00。土、日も開館。

被せガラスの技法はフランスのガラス作家エミール・ガレ (1846～1904) によって芸術的に高められ、人気を博しました。しかし、現在ではあまり作られなくなり、日本では切りガラスなどとして僅かに引き継がれています。

畑田先生の作品は、春夏秋冬折々の自然とのたわむれが原点で、自然との共生の中で自然の恵みに感謝することに始まります。日本の四季は景色の移ろいによって、どの季節でも満喫することが出来ます。自然の中では花や木は一瞬の休みもなく、刻々と移り変わり、ずっと見ても飽きることがありません。山や川や滝や海、空や雲や森や草花、鳥や蝶や魚たち、四季折々のメッセージを感じ、自然に導かれて、それをガラスに投影することで作品が出来上がることです。このような日本特有の美しい季節感を被せガラスで表現し、自然を愛しむ強い思いを込め、心の温さが伝わる作品の数々をご覧ください。

問合せ: 社会教育課 歴史文化推進室 ☎ 958-1111 内線 4481

